

学校教育目標	生き生きした 活力のある子
目指す学校像	児童と教師が輝く学校
重点目標	1 学校DXを展開し児童一人ひとりの学びを支援する学校(個別最適な学びの深化) 2 児童一人ひとりの実態に応じた、安心できる学校(生徒指導と教育相談の充実) 3 家庭と地域が連携し児童を支援する学校(コミュニティ・スクールの推進) 4 安全で美しい環境が維持できる学校(防犯ボランティアと緑化事業の推進) 5 教職員がやりがいを感じ、職務に専念することができる学校(教職員のWell-beingの実践)

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※重点目標は6つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。  
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

		学 校 自 己 評 価				学校運営協議会による評価	
		年 度 目 標		年 度 評 価		実施日令和 年 月 日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ○全国学力・学習状況調査やさいたま市学習状況調査の結果をみると、どの教科も全国・市の平均正答率より上回っており、概ね良好である。 ○これまでの教育実践において、個別学習を展開してきており、児童の実態に合わせた個別の学習が展開されている。 【課題】 ○学習の理解度に個人差があるため、児童一人ひとりにあった個別学習に取り組む必要がある。	○個別最適な学びと協働的な学びを柱とした主体的な学びの展開	○学校課題研究を柱とした研修に取り組み、児童が主体的に学習を展開できる授業実践を行う。 ○外部講師を招聘し、主体的な学びについての国や他自治体の取組、今後の動向についての研修を行う。	○学びの指標「主体的な学び」の学校平均数値が市平均を超えたか。 ○学校評価項目7「自律的な学び」の児童の肯定的評価が90%を超えたか。同項目保護者の肯定的評価が80%を超えたか。 ○教科の横断的な連携が組み込まれ、年間授業・行事実施時間数が令和8年度より少なく地域連携が組み込まれた令和9年度版年間指導計画が作成できたか。			
		○児童の実態に応じたカリキュラムマネジメントの実践	○カリマネデザインマップを基とした地域人材や地域教育資源の活用を行う。 ○各教科部会で教科の連携を図れる学習内容を検討し、次年度の年間指導計画に反映させる。				
2	【現状】 ○令和7年度学校評価項目1「学校生活」において、児童の93%は楽しく生活していると回答している。 ○生徒指導体制や教育相談体制は整備され、児童への対応は迅速かつ丁寧に行えている。 【課題】 ○不登校傾向の児童が複数名在籍しており、個別の対応が必要である。 ○配慮を要する児童が複数名在籍しており、昨年度同様の個別の指導体制の構築が必要である。	○多様な教育的ニーズに応じた特別支援・教育相談体制の充実	○迅速な対応を実現するため、「心と生活のアンケート」を確実に実施し、児童の実態を把握する。 ○年度内に複数回児童理解研修を実施し、配慮が必要な児童への対応について共通理解を行う。	○児童理解研修を年間2回以上実施し、児童の情報共有することができたか。 ○心と生活のアンケートを年間3回実施し、面談が必要な児童全員に面談することができたか。 ○教育相談部会において、資料等を活用し、効果的な情報共有、共通行動を年間10回以上実施することができたか			
		○不登校傾向にある児童に対する登校支援や学習支援	○教育相談日や個人面談週間等を設定し、児童の実態について情報共有を行える機会を増やす。				
3	【現状】 ○児童の成長を保護者と地域が一体となって見守り、地域のよさを実感させる活動が盛んに行われている。 ○学校評価項目22「地域の特色を活かした学習活動への参加」について、児童の75%が肯定的意見を持っている。 ○児童の登下校における見守り体制がPTAや防犯ボランティアの協力体制によって厚く展開されている。 【課題】 ○児童の地域行事への参加の意識は高いが、参画についての意識は不十分な点が見られる。	○社会に開かれた教育を実践する学校の教育活動の発信	○学校での児童の学習活動や生活の様子や学校に協力いただいている保護者、地域の活動を、ツールを利用して伝える。 ○たっぴ一畑の管理運営を地域、保護者と協働し、児童の体験学習を確実に実施する。	○学校HP上大牧小ブログにて年間50回以上児童の学校生活の情報発信ができたか ○たっぴ一畑の管理運営を地域、保護者と共に行うことができたか。			
		○学校運営協議会とSSNの一体的推進	○学校運営協議会を3回開催し、保護者、地域でのそれぞれの立場から関わられることに注目し、11月に児童と意見交換を行う。 ○SSN連絡協議会を2回開催し、学校運営協議会の熟議と協働について共有する。	○学校運営協議会が3回実施され、児童の実態に応じた熟議が行われたか。 ○SSN連絡協議会が2回実施され、児童へのサポート体制についての共通理解が行われたか。			
4	【現状】 ○地域や保護者の協力のもとで、学校の環境整備や緑化事業が進められている。 ○令和7年度学校評価項目13「学校の環境整備」については、保護者の95%の肯定的評価を得ることができた。 【課題】 ○学校施設において、修繕や改修が必要な個所が複数存在する。	○学校施設の計画的な修繕を実施するための予算運用	○毎月の安全点検を基にした必要な修繕への対応を安全部、事務担当と連携して行い、計画的な予算執行をすすめる。	○学校評価項目13「学校の環境整備」保護者の95%以上の肯定的評価を得ることができたか。 ○毎月の安全点検を確実に実施し、2週間以内に修繕計画が立てられたか。			
		○学校事故を未然に防ぐ安全な学校環境整備	○前年度までの検討事項となっていた校舎の老朽化に伴う修繕が必要な個所を、教育委員会と連携し計画的な修繕を実施する。	○検討事項の修繕箇所に関する修繕計画が作成されたか			
5	【現状】 ○令和7年度学校評価項目27「教職員の協力体制」について、教職員の肯定的回答は87%であった。 ○学校課題研修を主とした教職員研修では、メンター・メンティー研修等を活用した活発な研修が取り組んでいる。 【課題】 ○業務量管理の観点から、時間外在校時間の管理や事務処理等の管理について調整が難しい職員も見受けられる。	○教職員が個別に設定した課題に取り組み、キャリアアップを行える環境整備	○全国教員研修プラットフォームを活用した研修奨励を行い、個々の教職員のキャリアアップを支援する。 ○年間の研修の時間を確保し、計画的な自主研修に取り組める環境を整備する。	○人事評価「研修」における各教職員の評価B評価以上100%以上になったか ○人事評価「研修」における各教職員の評価かA評価以上10%以上になったか			
		○教職員が協働しながら業務管理を行うことができる環境整備	○年間5回の定時退勤日を設定し、教職員が時間外在校時間を縮小することができるマネジメントの支援を行う。 ○業務改善検討委員会を設置し、これまでの業務改善とこれからの業務改善について検証を行う。	○年間5回の定時退勤日を実施できたか ○年間時間外在校時間360時間以内で勤務した教職員の割合が76%以上となったか			

学びの質の向上に関する取組

子どもの発達や心のサポートに関する取組

地域とともにある学校づくりに関する取組

教育環境の整備に関する取組

教職員のキャリア形成に関する取組

学校運営協議会からの意見・要望・評価等